

1. 件名「新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（女川2号機（167）、東海第二（56）、柏崎刈羽6, 7号機（434）、浜岡4号機（172）、島根2号機（180）」

2. 日時：平成28年9月16日 10時30分～12時30分

3. 場所：原子力規制庁 13階C会議室

4. 出席者

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

秋本安全審査官、池田安全審査官、小林（貴）安全審査官、櫻井安全審査官、竹田安全審査官、近田安全審査官、沼田安全審査官、宇田川原子力規制専門職、森田技術研究調査官

（安全技術管理官（シビアアクシデント）付）

堀田首席技術研究調査官

事業者：

東北電力株式会社：火力原子力本部 原子力部副部長 他5名

日本原子力発電株式会社：発電管理室 技術・安全グループマネージャー 他4名

東京電力ホールディングス株式会社：原子力設備管理部 原子炉安全技術グループマネージャー 他4名

中部電力株式会社：原子力本部 原子力部 安全技術グループ長（部長） 他3名

中国電力株式会社：電源事業本部 担当部長（原子力管理） 他5名

電源開発株式会社：炉心・安全室 安全技術タスク 担当

北陸電力株式会社：原子力本部 原子力部 原子力安全評価チーム主任

メーカー：

日立GEニュークリア・エナジー株式会社：原子力計画部原子炉計画グループ 主任技師 他3名

株式会社東芝：原子力安全システム設計部安全システム技術第一担当 主務 他3名

5. 要旨

（1）東北電力株式会社、日本原子力発電株式会社、東京電力ホールディングス株式会社、中部電力株式会社及び中国電力株式会社（以下「BWR5社」という。）から、重大事故等対策の有効性評価に係るシビアアクシデント解析コードのうち、JASMINEコード、LS-DYNAコード及びAUTODYNコードについて説明があった。原子力規

制庁から、以下の点について指摘を行った。

(JASMINコード)

- チューニングパラメータについて説明すること。
- 水蒸気爆発の適用例として対象とした試験について、選定の理由を説明すること。
- ウォーターハンマーの試験については、試験体系と実機の形状等を比較して、実機への適用性を説明すること。
- 入力パラメータの設定の考え方について記載すること。

(LS-DYNAコード及びAUTODYNコード)

- AUTODYNの開発の経緯について説明すること。
- AUTODYNの解析例において、ガスバグモデルの圧力の時刻歴が2msec付近で降下している理由について説明すること。
- 反射波の影響確認において、反射波の重なり of 挙動が妥当であることを説明すること。(AUTODYNコード)
- ペDESTALの鋼板の応力評価において、応力分布等を考慮して、原子炉圧力容器支持機能の健全性への影響を説明すること。(LS-DYNAコード及びAUTODYNコード)
- 爆発源の設定について、圧力分布等の観点から、コード間で影響の差異を説明すること。

(2) BWR5社より、本日の指摘等について了解した旨の回答があった。

6. その他

提出資料：

- ・解析コード(JASMIN)説明資料
- ・解析コード(LS-DYNA)説明資料(参考資料)
- ・解析コード(AUTODYN)説明資料(参考資料)